

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700083		
法人名	医療法人財団 友朋会		
事業所名	グループホーム千寿荘(寿A・B)		
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919		
自己評価作成日	平成27年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年11月19日	外部評価確定日	平成27年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none">1. その人らしさを尊重し生活支援を行う上で自己決定権を尊重した援助方法を大切にしている。2. 陶芸療法や絵画療法には専門の療法士が関わり、利用者様は生き活きとした表情で作品作りに取り組みされている。またご家族に作品を見て頂き、残存能力を知ってもらおうと共に日頃の活動について理解してもらっている。3. 季節に応じた野外活動を行い、季節感を感じてもらっている。毎年行う日帰り旅行や餅つき会では利用者様とご家族のふれあいが深まり、良い思い出作りが出来ている。4. 敬老会後に開催する家族懇談会では主治医をはじめ、他職種が参加しご家族の質問や要望に応じている。5. 年間を通して行った行事や日頃の様子を写真に収め、敬老会のスライドショーで紹介し利用者様やご家族に見て頂き楽しんでもらい理解を深めてもらっている。6. グループホーム千寿荘新聞「鶴亀たより」を発行し、利用者様の生活が見えるようにしている。7. 認知症病棟での経験豊富な職員が配置され、各ユニットに看護師が1名ずつ常勤で配置されている他、介護職の6割以上を介護福祉士が占めるなど質の高いケアを提供している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>平成10年の開設で、佐賀県下におけるグループホームの草分け的な存在の事業所である。それだけに長い年月にわたって培われた知識や実践に基づいた質の高い支援が、経験豊富な職員によって行われている。広大な医療法人の敷地内にある各ユニットで、「家族愛のもと、長年にわたって培った技を普段の生活の中で生かしてもらえるように支援します」の理念のもと、利用者はゆったりと穏やかに自分の生活リズムで日々を過ごしている。日常の支援にあたっては毎朝、「今日一日を笑顔で過ごしましょう」の合い言葉で、まず、手鏡で自分の笑顔や身だしなみを確かめてから、利用者の支援に臨んでいる。一人ひとりの個性に合わせ、尊厳を尊重した支援は、職員の「家族として一緒に過ごしましょう」の気持ちでの支援と相まって、利用者の笑顔や穏やかな表情となって現れている。</p> <p>毎日の「朝のつどい」で利用者の今日の過ごし方の希望を聴き、利用者主体の一日の流れが始まるのはこの事業所ならではの。主治医、精神保健福祉士、芸術療法士等の専門的な助言や協力等を得られることは、協力医療機関との緊密な連携と共に家族の安心感につながっている。また、利用者の希望を取り入れ、変化に富んだ年間行事(花見、森林浴、ホテル見物、日帰り旅行、棚田案山子見学、もちつき、作品展示会等)は利用者の楽しみである。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や基本方針を朝のミーティング時に唱和し、念頭に置き個別にあった関わりをしている。食材の買物、調理、農園芸、活動等、日々その人ができることへの取り組みを実践している。	左に同じ	左に同じ	事業所独自の理念を創りあげており、年度当初には法人の理念や前年度の評価を踏まえて検討している。朝の唱和や会議での話し合いでは常に理念を意識しながら、日常での支援に反映させている。また、手鏡で自分の笑顔や身だしなみを確かめてから、今日の支援に臨んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域の老人会、住民にメンバーとして入って頂き、行事のお知らせをして参加の呼びかけも行っている。毎年嬉野市役所へ連絡し、文化祭への出品展示の確認を行い作品コーナーも設けてもらっている。そのコーナーには日頃利用者様が作成された作品を展示し、見学に行くのを楽しみにされている。小規模多機能ホーム「孝心の里」とグランドゴルフの交流会を行っている。	左に同じ	左に同じ	法人自体が地域とのつながりを重視しており、事業所も事業所としてできる範囲内で地域との交流を図っている。地域の文化祭へ出品したり、美化活動、神社の掃除に参加したり、地域住民からの相談等にも応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の作品展示会に運営推進委員から地域の方に参加を呼び掛けてもらったが参加は得られなかった。今後も継続して取り組んでいく。	左に同じ	左に同じ		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況や行事報告、今後の行事予定などを報告し、それに対する意見、提案などを伺っている。また利用者と一緒に食事や会話をする時間を設けている。献立についての感想や意見を聞いたりしている。外部評価の結果についても報告し、意見を出してもらい次に活かしている。	左に同じ	左に同じ	単に利用状況や行事の報告、今後の行事予定のお知らせ等にと終わることがなく、各委員から多様な質問や意見が出され、それが支援に活かされている。地域密着型サービスや外部評価についても話題になり、地域の情報を得ることができる良い機会にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の介護相談員派遣事業を受け、利用者から意見などを聞いて頂き、気軽に話し合っておられる。利用者からの意見を聞かれた後には、介護相談員と職員とで情報交換を行っている。嬉野市地域包括支援センターとは運営推進会議以外でも、ケースワーカーを通じて情報交換を行っている。	左に同じ	左に同じ		市文化祭への出品、地域包括支援センターとの情報交換や課題の共有、介護相談員の受け入れなどこれまで以上に行政との連携に努めている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は併設病院の身体拘束廃止委員会に出席し、職員へ伝達講習を行い理解を深めている。また研修会や勉強会へも参加している。基本方針に身体拘束をしないことを明記すると共に毎朝業務開始前に唱和し声を出して意識づけを行っている。屋外への散歩等個別対応して利用者の精神的拘束感を軽減できるようにしているが利用者様の状況に応じて玄関の施錠をする場合がある。	左に同じ	左に同じ		身体拘束をしない支援はもちろんのこと、言葉等による精神的な拘束がない支援についても全職員の意識が高い。身体拘束の事例も無い。利用者の安全確保のためのエレベーター利用時間制限や、減多にないが、やむを得ずに玄関の施錠が必要な場合は、家族にも説明し、理解と了承を得ている。その場合も、玄関の施錠をしない、また自由にエレベーターを利用できる時間帯を設けて、閉塞感の軽減に努めている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	友朋会の高齢者虐待防止・対応マニュアルを参考に学習会を行っている。また毎日入浴時に全身の観察を行っている。現在家族からの意見・苦情はあっていない。職員間で待遇またヒヤリハットの事例を基に検討会を行い周知している。	左に同じ	左に同じ		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は弁護士が出席される併設施設の人権擁護委員会に参加し、事例をもとに話し合う機会がある。また職員は看護部教育委員会の人権に関する研修会に参加し、他の職員にも伝達講習をしている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学時にリーフレットを渡し簡単な説明を行っている。入所時には利用者、ご家族と十分に話し合える時間を取っている。必要に応じて千寿荘担当の精神保健福祉士と連携を図っている。また介護保険改定時には利用者、ご家族に改訂した利用説明書を提示し、説明を行い了解を得ている。	左に同じ	左に同じ		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の流れを揭示し意見箱も設置している。公的相談窓口のマニュアルも揭示している。介護相談員の訪問を受け、利用者から話を聞いて頂いているが、現在苦情は発生していない。訪室時に利用者様から生活環境面等について困った事はないか尋ねている。ご家族の面会時に利用者様を交え近況の情報提供を行っている。年1回のアンケート調査や家族懇談会でご家族の意見を運営に反映させている。	左に同じ	左に同じ	面会時における職員の笑顔で丁寧な対応は、家族に安心感や信頼感を生み、家族は要望や意見など何でも相談しやすい感じを抱くことができている。家族アンケート、意見箱の設置、相談窓口の案内等あらゆる機会を通じて、家族や利用者の意見や要望の収集に努めている。声なき声に配慮し、質の高いサービスを目指して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者会議を月に2回、千寿荘会議、ユニット会議を月1回開催し、運営に関する意見や提案を出してもらい検討している。議事録を記載し全職員に周知できるようにしている。意見を述べる機会を作り相互理解につなげている。管理者は法人の定例運営会議で開設者との意見交換を行う機会がある。また事務長や看護部長、担当師長が巡回時に職員の意見を聞く機会がある。	左に同じ	左に同じ	定例の会議だけでなく、管理者は日常の業務の中でも常に職員の意見を聴き運営に反映させている。3ユニット合同で行っていた日帰り旅行やホテル見学を各ユニット毎に行うようにしたのは一つの例である。法人の上司も職員や利用者と一緒にする等意見を言いやすい環境づくりに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	併設施設全体の労働安全衛生委員会の「メンタルヘルスサポート体制」を示し、相談はいつでも行えるように掲示している。労働安全衛生委員会の職場巡視の際にも設備面や労働環境全般に対して要望を述べる機会がある。また併設施設の看護部長が毎年6月に職場環境調査や職場ニーズ調査を行い、職員から直接意見を収集できる仕組みがある。代表者である理事長には運営会議の場や毎月の管理日誌、種々の書類を提出している。年度末に人事考課システムがあり、職員個々の実績評価をされている。院外の研修を希望する職員に対し時間や費用などの支援が整備されている。	左に同じ	左に同じ		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアの質の向上の為に認知症介護実践者研修、介護支援専門員研修に該当者を参加させている。また介護福祉士・介護支援専門員の資格取得に向けての支援や院内外への研修会に参加できる様に職員の人員を確保している。また看護、介護実践能力評価表に基づき基本的な知識・技術・態度が身につけているかを自己評価した上で他者評価を行い段階的なレベルアップに努めている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県グループホーム協会主催の研修会に参加し、お互いのサービス内容の情報交換や鹿島・藤津地域リハネットワーク研究会の研修会などに参加して、地域の同業者から情報を得たり、サービスの質の向上への取り組みを行っている。	左に同じ	左に同じ		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や困っていることに対し、可能な限り関わりを多く持ち緩和に努めている。特に初期はユニット責任者が関わり、状況を把握し他のスタッフと共有することで安心できるように努めている。またご家族にも面会や電話での関わりなど協力を頂いている。	左に同じ	左に同じ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの不安や要望については親身になって聞き、電話や文書で返答している。必要に応じて介護支援専門員や担当の精神保健福祉士にも相談し、ユニット責任者と共に話し合いの場を設けている。ご家族の思いや状況を理解し、いつでも相談しやすい雰囲気作りに努め信頼関係の向上に努めている。	左に同じ	左に同じ		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族のニーズを基に作成したケアプランに沿ってサービスを提供している。必要に応じて症状や介護度によって受けられるサービスも視野に入れ、ソーシャルワーカーやケアマネージャーと共にご家族の支援にあたっている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で、感謝、共感の言葉を使うようにしている。能力に応じた役割をお願いし、職員と一緒に会話を大切にしている。食材の買物や菜園については希望を尋ね、気持ちを尊重するとともに意欲アップにつなげている。	左に同じ	左に同じ		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ毎月郵送している健康についての「お知らせ」に行事案内を加え参加を呼びかけている。参加されたご家族と利用者様、職員は和気藹々とした雰囲気の中で交流を深めている。また面会時には近況報告なども行っている。行事や利用者様の生活状況が分かるように千寿荘新聞「鶴亀たより」を定期的に発行しご家族へ郵送している。今年度も敬老会で年間を通して日々の様子や行事の写真をスライドショーとして紹介し、利用者様、ご家族に楽しんで頂いた。	左に同じ	左に同じ		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の病院受診を希望される方へは家族に協力してもらい受診されている。また買い物は行きつけの店に同行してもらい、美容室も継続して利用できるように支援している。	左に同じ	左に同じ	自分の家の近くまで一緒に出かけたり、これまで馴染んできた理美容室の利用を支援している。買い物や薬局に寄った時に知り合いの方と会い、挨拶や会話を交わすことも多々ある。知人が面会にみえた時は、居室でゆっくりと時間を過ごしてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係を考慮し、利用者間の関係が良好に保てるようにテーブルの席や入浴の順番にも配慮している。おやつ時間を設定し交流の場としている。一人で歩けない利用者様の下膳をして頂いたり、利用者様の能力に応じてお互いに助け合える関係作りを支援している。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設医療機関への入院の為、退荘された後訪問し病状を尋ねたり、他の利用者と共に見舞いに立ち寄りしている。	左に同じ	左に同じ		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者1~2名に対し職員1名の担当制も取り入れ、利用者の思いや希望など意向の把握に努めている。料理の準備として魚をさばいたり野菜を刻んだり、食後の後片付け等、生活リハビリとして自立支援をめざしている。	左に同じ	左に同じ	入居時の諸情報からだけでなく、入居後も利用者の心に寄り添いながら、ちょっとした行動や動作、つぶやき等からも常に意向の把握に努めている。かつて趣味だった絵手紙が病気で描けなくなった利用者の、もう一度絵手紙を描きたい気持ちを察して支援し、利き腕でない手で描けるようになった方もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より生活史として情報収集し介護計画に活かしている。利用者様の状態やご家族その他利用者様を取り巻く環境について、毎年データベースの見直しを行い、最新の情報を基に介護計画に活かしている。	左に同じ	左に同じ		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	援助項目に沿って日々の記録、また各勤務帯で利用者の状況がわかる記録を行っている。サービス計画書の6か月毎の評価、3ヶ月毎のモニタリング、サービス担当者会議で他職種の情報も含め把握・評価できるようにしている。	左に同じ	左に同じ		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様及びご家族から面会の際にサービスに関する要望等を聞いている。サービス担当者会議では利用者様、ご家族、担当医、計画作成担当者、受け持ち職員、精神保健福祉士、芸術療法士などの出席を得て、ニーズや課題、援助内容を検討している。参加出来ない職員は書面での参加としている。	利用者様及びご家族から面会の際にサービスに関する要望等を聞いている。サービス担当者会議では利用者様、ご家族、担当医、計画作成担当者、受け持ち職員、精神保健福祉士、芸術療法士などの出席を得て、ニーズや課題、援助内容を検討している。担当医が参加することで、ご家族は医療面その他についても気軽に相談できるようにしている。	左に同じ	まさに全職員が一体となって作成された具体的で実現可能な計画である。日常の支援の中で利用者や家族の意向を十分に汲み取り計画に反映させている。週間サービス計画表、日課計画表、サービス担当者会議の要点、アセスメント結果、モニタリング実践記録表、介護支援専門員の総合評価等もきちんと整備されている。定期的なモニタリングはもとより現状に即した見直しもきちんと行われている。	

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画書に沿ったケアの内容を共有しながら実践している。実践した内容は援助記録に残し、3カ月毎に記録している日常生活動作能力経過表の評価と共に必要に応じて朝のミーティングやユニット会議で提案し介護計画の見直しに繋げている。	左に同じ	左に同じ		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様に対し、その時々に応じて内科や眼科など受診しやすい環境である。行事にボランティアの方に参加して頂いたりしている。毎日の食材の買い物や散歩、外食など積極的に取り組み、また地域の行事へも参加している。	左に同じ	左に同じ		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーへの買い物、理美容室を利用している。また併設施設内の喫茶店で自分の好きなものを選んでもらい、飲食を楽しんでもらっている。市報「うれしの」「県民だより」で情報を提供し、地域の行事への参加につなげている。	左に同じ	左に同じ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への受診が必要となった場合は本人、ご家族の希望のかかりつけ医にご家族の協力を得て受診してもらっている。また協力医療機関である嬉野温泉病院や宮原歯科医院と連携を図っている。	左に同じ	左に同じ	利用者や家族が希望する医療機関、かかりつけ医での受診である。受診にあたって家族の都合がつかない場合は職員が同行、支援している。入院した利用者の洗濯物を取りに行ったり、届けた事例もある。協力医療機関との綿密な連携は家族の安心の基となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに1名の看護師を配置し、3ユニット全体で毎日最低1名以上の看護師が勤務している。また法人の当直師長や外来看護師の協力も受けている。日常的な健康管理を行い身体的、精神的状況の把握に努めている。介護職員は看護師と連携を図り、情報の報告、指示、助言を受け、必要な対応を行っている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設施設に利用者様が入院された場合は、職員が面会に行き、病棟スタッフとの情報交換を行い、回復状況を見て再入所可能な場合は早期に退院できるようにしている。併設医療機関以外に入院の場合は地域連携室と連携し、診療情報提供書による情報提供を行っている。	左に同じ	左に同じ		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用説明書に重度化した場合の対応について明記している。入所時に利用者様・ご家族に説明し、ご意見を聞きながら方針を共有している。急変時対応希望書に心停止や呼吸停止、外傷などによりご本人との意思疎通が取れなくなった時や、ご家族とすぐ連絡がつかない場合の対応について具体的な項目を選択して頂きサインを得ている。ご家族の要望を取り入れるため併設施設や地域の医療機関との連携を図っている。	左に同じ	左に同じ	入居にあたって、重度化した場合の方針を事業所としてできること、出来ないことを説明して十分に話し合っており、家族の同意を得ている。状況の変化があった場合は、本人や家族の気持ちや意向を配慮しながら、主治医とも緊密な連絡を取りながらの支援である。看取りについては、基本的に設備の整った医療機関での治療を前提とし、状況に応じて家族と相談の上での支援である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置用物品の整備と使用法の研修を行い、応急手当のマニュアルや併設病院への緊急連絡網を明示し活用できるようにしている。応急処置ができるように応急手当マニュアルを整備している。AEDや異物除去用吸引器の取り扱いについては、職員全員が併設病院の研修や伝達講習で使用できるようにしている。急変時の対応(連絡を含む)がスムーズに行えるよう定期的に学習会を実施している。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の火災・災害訓練に参加し、避難における知識、技術を学んでいる。またホーム独自でも定期的に初期消火、通報・連絡、避難誘導訓練を行っている。地域との連携については併設病院の協力のほか、法人全体の火災・災害訓練に嬉野医療センターも参加され共に協力体制ができています。火災通報装置、またスプリンクラーが設置されている。	左に同じ	左に同じ	防火・防災管理規程に基づき、事業所でも独自に年2回の避難訓練を実施している。夜間を想定し、実際に夜の時間帯に実施している。地元消防団の協力を得ての訓練を行っていたが、消防団の事情で、現在は消防団の協力は得られていない。地域の地形の特徴から、ため池決壊のための土砂災害を想定した訓練を行ったこともある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方針に「人権擁護」を掲げ、接遇に関する注意事項を毎朝ミーティングで唱和し、利用者様の人権尊重を意識した関わりができるように努めている。併設施設の教育委員会主催の人権擁護に関する研修に参加し、意識向上に努めている。	左に同じ	左に同じ	事業所の開設以来、人権擁護、尊厳の尊重は、運営方針の根本になっている。その方に合った言葉かけを含む接遇一つを見てもそのことがうかがわれる。個人情報についてもきちんと守られている。事業所便りに利用者様の写真を掲載する場合は、家族の同意を得て使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の集いの時間にその日の体調を含め、一日の過ごし方について自己決定できる機会としている。思いや気持ちを表出しない方には個別に関わり、その方の気持ちに沿うよう心がけている。	左に同じ	左に同じ		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	週間サービス予定表や日課表は個別に作成しているが、利用者様のその日の体調を把握した上で、体調に応じた利用者様本位の支援を行っている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝はポイントメイク、外出時は簡単なメイク、入浴後は化粧水など、利用者様の好むおしゃれを支援している。また外出時には普段着から外出着へ衣類の選択支援を行っている。入所前からの行きつけの理美容院へ行けるように職員が同行したり、ご家族へ協力を依頼している。	左に同じ	左に同じ		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1日は赤飯を炊き、季節の山菜、旬の食材を使った献立としている。魚は鮮魚店と契約し、新鮮で種類も豊富で食べやすい形で提供している。誕生日には利用者様の好物を献立に取り入れている。食材の買い物、調理、味付け、後片付けなどは、利用者様の意志、希望を尊重し一緒にやっている。週2回の朝食時のパンを希望されない利用者様にはご飯を提供する等柔軟に対応している。	左に同じ	左に同じ	職員も同じ食事を利用者と一緒にいただいている。利用者をそれとなく見守りながらの食事である。各ユニットでそれぞれ食事が作られており、調理の音や匂いは五感を刺激している。利用者もできる範囲内で役割分担があり、準備や後片付け等を職員と一緒にやっている。食材の買い出しは毎日行われており、新鮮な食材が使われている。毎月1日の赤飯は、利用者の楽しみでもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成については管理栄養士の指導を受け、カロリーや栄養バランスに留意している。個々の利用者様の嗜好やアレルギー食材等の把握も行い配慮している。義歯の有無や状況に応じて主食の二炊きや副食のキザミ食等、摂取しやすいように支援している。食事摂取量については毎食ごとに記録に残している。水分については食事以外に10時、15時、入浴後等にお茶やコーヒー等、希望されるものを摂ってもらっている。ポカリスエットを常備し必要に応じて摂ってもらっている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の際、義歯の装着具合や摂取状況を見ている。また毎食後に歯磨きや義歯洗浄の支援も行っている。週に1回ポリドントによる義歯洗浄や歯ブラシ、コップの洗浄も行い清潔にも気を配っている。嚥下力や口の周りの筋力アップを目標に「健口体操」を行っている。	左に同じ	左に同じ		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入所から7日間と年度初めの3日間は、排尿排便の時間や性状を排泄管理表にチェックし、個別の排泄状況を把握している。誘導はさりげなく早めに声かけを行い、安易に紙おむつ等は使用せず、トイレでの排泄に向けた自立支援を行っている。	左に同じ	左に同じ	綿密な観察や管理票によって、一人ひとりの排泄習慣やパターンが把握されおり、個々に応じた支援が行われている。一人ひとりに応じたさりげないトイレ誘導である。安眠への不安から夜間だけオムツを望まれる方にも、朝に本人用下着に交換する等、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため毎日屋内の散歩などの運動を取り入れている。便秘傾向の利用者様には食物繊維を多く含む食品やヨーグルトを提供し便秘予防に努めている。	左に同じ	便秘予防のため毎日屋内の散歩などの運動を取り入れている。便秘傾向の利用者様には食物繊維を多く含む食品や、自家製のヨーグルトを提供し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様に入浴時間の希望を聞き、入浴の方法や時間帯など、個人のペースで入浴できるように心掛けている。誘導時に拒否のある利用者様には声かけの工夫をしたり、時間の配慮をしている。	左に同じ	左に同じ	毎日入浴の準備が出来ており、毎日入浴する利用者もある。入浴時間帯や入浴時間に特別の制限は無い。お湯の温度や入浴順番も一人ひとりの好みに応じた入浴支援が行われている。また、冬場は特に脱衣場の室温差が無いように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活リズムを守りつつ、年齢、身体の状態等に合わせて午睡や休息も取り入れるようにしている。一人ひとりの気持ちや意思を尊重し、休息などにも配慮している。寝付きの悪い利用者様にはホットミルク等の飲み物や菓子類を提供している。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から薬の名前、作用、副作用などの説明書もらい、スタッフが目を通して把握できるようにしている。処方変更や臨時薬がでた場合も説明書もらい、効果や副作用等について伝達し把握できるようにしている。	左に同じ	左に同じ		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報をもとに本人の意思を尊重しながら役割を決めている。食事の準備、後片付け、食材の下ごしらえや、洗濯物干しやたたみ、翌日の日付交換など能力に応じ、必要に応じて見守りの中で行なわれ、役割意識が高まり喜びにも繋がっている。趣味の生け花や書道にも取り組まれている。利用者様から嗜好品の購入希望があれば売店に付き添い購入してもらっている。	ご家族からの情報をもとに本人の意思を尊重しながら役割を決めている。食後のお盆・テーブル拭き、食材の買い物や、洗濯物干しやたたみなどをされている。また翌日のメニュー書き能力に応じ見守りの中で行なわれ、役割意識が高まっている。利用者様から嗜好品の購入希望があれば売店に付き添い購入してもらっている。	ご家族からの情報をもとに本人の意思を尊重しながら役割を決めている。食後のお盆・テーブル拭き、食材の下ごしらえや、洗濯物干しやたたみなどをされている。また翌日のメニュー書きや日付交換を担当してもらっている。能力に応じ、必要に応じて見守りの中で行なわれ役割意識が高まり喜びにも繋がっている。趣味の生け花や書道にも取り組まれている。利用者様から嗜好品の購入希望があれば売店に付き添い購入してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝の集いで本日の予定のお知らせを行うと共に利用者様からの希望を聞く機会を設けている。天候や気温等、条件が揃えば屋外散歩や菜園活動を行っている。天気の良い日は屋外で日光浴も行っている。また利用者の希望があれば日用品や嗜好品を売店まで買い物と一緒に出かけ、地域と触れ合う機会を支援している。	朝の集いで本日の予定のお知らせを行うと共に利用者様からの希望を聞く機会を設けている。天候や気温等、条件が揃えば屋外散歩を行っている。天気の良い日は屋外で日光浴も行っている。また毎日の食材の買い物と一緒に出かけ、地域と触れ合う機会を支援している。	朝の集いで本日の予定のお知らせを行うと共に利用者様からの希望を聞く機会を設けている。天候や気温等、条件が揃えば屋外散歩を行っている。天気の良い日は屋外で日光浴も行っている。また利用者の希望があれば町内の衣料品店まで買い物と一緒に出かけ、地域と触れ合う機会を支援している。	希望によって広い法人内の敷地を散歩したり、外気浴をしている。売店や近くのお店で日用品を買ったり、喫茶店に寄ることもある。年間行事の中には職員による手作りの花見弁当があったり、ホテル見学で滅多にない夜の外出を満喫した利用者もある。	

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の中で金銭の所持を希望される方、ご家族の理解や協力が得られる方は金額を考慮した上で所持されている。地域のスーパーや近くの売店で買い物される際、直接お金を支払ってもらったり毎週日曜日に小遣いを一緒に現金出納帳の残高と現金を本人に確認してもらいお金に触れる機会を作っている。	左に同じ	利用者様の中で金銭の所持を希望される方、ご家族の理解や協力が得られる方は金額を考慮した上で所持されている。地域のスーパーや近くの売店での買い物、理容室で直接お金を支払う方もおりお金に触れる機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に設置してある公衆電話をいつでも使用できるようにしている。また金銭を所持されていない利用者様がご家族への電話を希望された場合は、事業所から取り次ぐなどの支援を行っている。利用者様が活動で作成したはがきを利用して年賀状や暑中見舞、絵手紙を出している。	左に同じ	左に同じ		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋建てのホールの天井は吹き抜けで、囲炉裏があり古民家風の建物である。窓は大きく日光は十分に取り入れられる。照明は明るすぎないように調整され、窓には内側に全て障子風の二重戸にし、落ち着いた家庭の雰囲気を感じられるよう工夫している。	玄関には季節の花や置物を飾り、和めるような雰囲気作りをしている。食堂や廊下にはクラフトの時間に全員で作成した作品を掲示している。ホーム内の壁は茶色を基調とした配色で、ドアは障子風のデザインとし家庭の雰囲気を感じることができるように工夫している。	左に同じ	各ユニットともそれぞれに落ち着いて過ごせる空間がある。囲炉裏があったり、ソファやテーブルが効果的に置かれている。玄関の生け花を利用者が交代で生けているユニットもある。畑には野菜も育っている。各ユニットとも落ち着いた色調である。また、静かで無用な音も聞こえない。	

自己	外部	項目	自己評価(千寿荘)	自己評価(寿 A)	自己評価(寿 B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには植木や本棚等を置いてある事で個々の利用者がそれぞれに楽しませられている。植物が好きな方はご家族が持ってこられた物を居室に置き楽しませられている。日光に当てたり水遣りを日課にされている。長ソファを置いたりして、居場所作りを意識した環境的配慮を心掛けている。	ホールには植木や本棚等を置いてある事で個々の利用者がそれぞれに楽しませられている。植物が好きな方はご家族が持ってこられた物を居室に置き楽しませられている。3～4人掛けのソファを廊下に置き、複数の利用者が一緒に過ごせるスペースを作るなど環境的配慮を心掛けている。	ホールには植木や本棚等を置いてある事で個々の利用者がそれぞれに楽しませられている。植物が好きな方はご家族が持ってこられた物を居室に置き楽しませられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の希望で使い慣れた寝具類を持ち込まれている方もおられる。また個人のTVや家具、趣味や好みの物を持ち込まれ楽しんでおられる方もいる。	居室には利用者の希望で使い慣れた寝具類を持ち込まれている方もおられる。また個人の好みの物を持ち込まれ楽しんでおられる方もいる。	居室には利用者の希望で使い慣れた寝具類を持ち込まれている方もおられる。また個人の位牌や遺影を持ち込まれたり、趣味や好みの物を持ち込まれ楽しんでおられる方もいる。	馴染みの品、お気に入りの物の持ち込みに特別の制限は無く、各居室が利用者がそれぞれにゆっくりと心安らかに暮らせる所になっている。趣味の絵手紙や書道の道具や大正琴、孫やひ孫の写真、誕生会や敬老会での色紙、テレビ、使い慣れた家具など色々なものを見受けすることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、床は衝撃吸収フローリング床を使用し、老人カー使用の利用者や歩行が不安定な利用者にもやさしい造りになっている。食堂など共用の場所には囲炉裏があり、床に座り足を降ろしてゆっくりできる。また能力的に難しい方には椅子もあり、極力残存能力を活かした自立支援を行っている。居室の入口には本人の家紋と表札を設置し、自分の部屋という認識をもらい安心して生活してもらえるようにしている。	建物内部はバリアフリーで、床は衝撃吸収フローリング床を使用し、老人カー使用の利用者や歩行が不安定な利用者にもやさしい造りになっている。介助歩行や見守りの必要な利用者様は、食堂など共用の場所に近い所を居室とし、極力残存能力を活かした自立支援を行っている。居室の入口には本人の家紋と表札を設置し、自分の部屋という認識をもらい安心して生活してもらえるようにしている。	左に同じ		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 みの 成 果			
		↓ 該当するものに○印をつけてください			
		ユニットA	ユニットB	ユニットC	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
					2. 利用者の2/3くらいの
					3. 利用者の1/3くらいの
					4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	○	1. 毎日ある
					2. 数日に1回程度ある
					3. たまにある
					4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください			
		ユニットA	ユニットB	ユニットC	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	○	1. ほぼ全ての家族と
					2. 家族の2/3くらいと
					3. 家族の1/3くらいと
					4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	○	1. ほぼ毎日のように
					2. 数日に1回程度ある
					3. たまに
					4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	○	1. 大いに増えている
					2. 少しずつ増えている
					3. あまり増えていない
					4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	○	1. ほぼ全ての職員が
					2. 職員の2/3くらいが
					3. 職員の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
					2. 家族等の2/3くらいが
					3. 家族等の1/3くらいが
					4. ほとんどいない